

250

四肢の可動性と骨シンチグラム
(骨萎縮における磷酸及びカルシウム
代謝について)

昭和大, 医. 放
徳永宏司, 小松隆, 志村秀夫, 菱田豊彦
昭和大, 医. 整
丸山俊章
熱海総合病院, 核診
竹内方志

脳脊髄疾患等で病的にできた骨萎縮または可動性を失うことによりできた骨萎縮には, ^{99m}Tc 磷酸塩が異常に取り込まれることを, 検索してきた。

われわれは脳脊髄疾患で四肢が片麻ひした患者約30例の四肢のX線写真と ^{99m}Tc 磷酸塩による骨シンチグラムを比較検討した。また動物実験で, 骨萎縮の発症の進行過程及び回復過程をX-Pと骨シンチグラムで追跡し, ^{99m}Tc 一磷酸塩のとり込みと骨のカルシウムの「出」と「入」について考察した。

われわれは四肢の骨におけるカルシウムの「出」・「入」と ^{99m}Tc 一磷酸塩の取り込みとは逆並行的な関係にあると推定し, これをもとにして動物実験を進め, 骨の磷酸及びカルシウム代謝を追跡する。

251

慢性皮膚疾患における骨シンチグラフィ

大市大 放
○越智宏暢, 増田安民, 大村昌弘,
池田穂積, 井上佑一, 阿部邦昭,
中島秀行, 南川義章, 玉木正男
大市大 皮
庄司昭伸

乾癬患者における骨シンチグラフィの報告は Holzmann らによるものがあり, 手足の小関節において全例にRIの異常集積像を認めたといい。今回われわれは乾癬を含む66例の慢性皮膚疾患患者に骨シンチグラフィを施行し, 40例(61%)に骨へのRI異常集積を認めた。66例中37例の乾癬患者のうちでシンチ上骨への異常集積を示したものは19例(51%)であり, その異常集積は手関節, 手指骨, 胸骨, 肋骨, 胸腰椎, 足関節など種々の部に認められ, 手指骨間関節への集積例は少なかった。その他の皮膚疾患としては, アトピー性皮膚炎(成人型), (皮膚癢痒症), 高熱を伴った慢性蕁麻疹, アトピー性皮膚炎に続発した紅皮症, 掌蹠膿疱症, 貨幣状湿疹, Sweet's syndrome, 痛風, 帯状疱疹あるいは帯状疱疹後の神経痛などで骨シンチが陽性に認められた。Pigmented cosmetic dermatitis, Lichen amyloidosis, Scleroderma adultorum では骨シンチ陰性であった。骨シンチは通常 ^{99m}Tc -リン酸化合物 15~20mCi 静注し, 2~3時間後から全身スキャナーで前後方向から全身骨シンチと胸部, 腹部前後方向, 両手についてシンチカメラでスポット撮像しているが, その他の部にも異常集積がある場合には同部のスポット像を撮っている。

RI異常集積は手指骨などでは多発することが多いが, 肋骨, 椎骨では単発限局性の集積として描出されるものが多い。骨シンチ陽性例とそれぞれの疾患の発病からの期間との関連は認めなかった。また, 皮膚疾患ではステロイドを使用することが多いが, 骨シンチ陽性とステロイド使用の有無との間にも関連はみられなかった。膿疱性乾癬の2症例では関節痛など症状の極期の骨シンチよりも寛解期の方がRI異常集積が強く認められた。